



時雨亭跡の石積み
二尊院



常寂光寺
「時雨亭跡」碑



厭離庵
「小倉山荘旧址厭離庵」石碑

定家が百人一首を編纂したとされる「小倉山荘（時雨亭）」とは、どこのことでしょうか？

現在、**常寂光寺**には「時雨亭跡」碑や「小倉百人一首編纂之地」石碑など、また**二尊院**には時雨亭跡の石積みがあり、さらに**厭離庵**には「小倉山荘旧址厭離庵」石碑や参道入口付近に「中院山荘跡」胸札があり、この3ヶ所が候補地とされています。未だ正確なところはわからないようですが、定家の山荘は常寂光寺仁王門北、つまり二尊院南の付近にあり、厭離庵付近は僧蓮生の中院山荘跡とする説を採る人が多いようです。

皆さんはいかがお考えになるでしょうか？定家が小倉百人一首を編纂する風景を思い浮かべながらこの辺りを歩けば、新たな発見があるかもしれません。



▲時雨亭



▲定家塚



えんりあん
厭離庵

藤原定家がこの地で百人一首を編纂したとされ、「定家塚」や当時を偲んで再建された「時雨亭」があります。紅葉の季節には特別拝観があり、多くの人々が賑わいます。



にそんいん
二尊院

釈迦如来と阿弥陀如来の二如来を本尊とすることが寺名の由来です。参道は「紅葉の馬場」と呼ばれ、秋には多くの人々が賑わいます。山腹には、時雨亭跡とされる石積みがあります。



じょうじやっこうじ
常寂光寺

小倉山の中腹にあり、秋の紅葉と、京都市内や比叡山を一望できる絶景で有名な日蓮宗寺院。山門から仁王門、本堂へと続く山道は、秋には約200本の紅葉のトンネルとなります。調儀祠（かせんし）には、定家と家隆の木像が安置されています。



せんこうじ
千光寺

江戸時代の豪商・角倉了以が、大堰川の開削工事で亡くなった人々を弔うために建立しました。

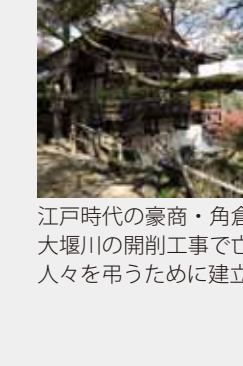


おおこうちさんそう
大河内山荘

昭和初期の映画俳優・大河内傳次郎が30年にわたり私財を投じて造りあげた庭園。桜や楓が多く、美しい園内から保津峡や比叡山と京の町並み等も眺めることができます。



千光寺に向かう保津峡の景観



展望台から見た千光寺



展望台から千光寺・保津峡を望む

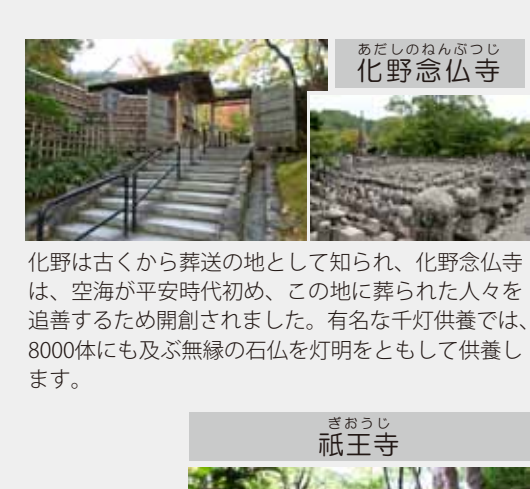


すみのからりょういろうどうそう
角倉了以翁銅像

安土桃山・江戸初期の豪商である角倉了以は、朱印船貿易で巨富を得、その財力で大堰川（おおいかわ）や高瀬川等の開削を行い京都発展の礎を築きました。



竹林の道



あだしのかんぶつじ
化野念仏寺

化野は古くから葬送の地として知られ、化野念仏寺は、空海が平安時代初期、この地に葬られた人々を追善するため開創されました。有名な千灯供養では、8000体にも及ぶ無縁の石仏を灯明としてもて供養します。



たきくちでら
滝口寺

平家物語で有名な滝口入道と横笛の悲恋の地として知られる寺院。堂内には滝口入道と横笛の木像があり、境内には新田義貞の首塚があります。



ぎおうじ
祇王寺

平清盛に寵愛された白拍子・祇王の悲恋の物語で有名な寺院。堂内には平清盛と祇王、祇女、母の刀自（とじ）、仏御前の木像が並んで安置されています。



小倉山
「小倉百人一首」の名の由来となった山
標高286m



中院入道前大納言
藤原為家卿之墓

為家は鎌倉時代の歌人で藤原定家を父に持ち、「続古今集」や「続古今集」の編纂に携わりました。墓は厭離庵の東側の小さな公園内にあり、墓の横には「定家卿墳遷葬所」があります。



長神の杜地区
19首
新古今集・詞花集



二尊院



常寂光寺



千光寺



大河内山荘



亀山公園展望台

眼下には保津川、向側にはこの川を開削した角倉了以がかりの千光寺が見え絶景です。



しゆでん
時雨殿

百人一首に関する貴重な資料や100体の歌仙人形の展示、そして平安時代の装束を体験できるコーナー等があります。

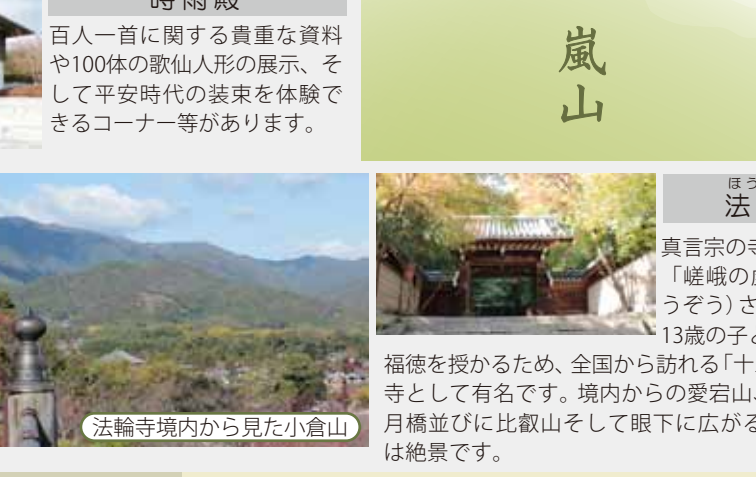


ほうりんじ
法輪寺

真言宗の寺院で、通称「嵯峨の虚空蔵（こくうざう）さん」。数えて13歳の子どもが智慧と福德を授かるため、全国から訪れる「十三まいり」の寺として有名です。境内からの愛宕山、小倉山、渡月橋並びに比叡山そして眼下に広がる市内の眺めは絶景です。



法輪寺境内から見た小倉山



角倉了以翁銅像

安土桃山・江戸初期の豪商である角倉了以は、朱印船貿易で巨富を得、その財力で大堰川（おおいかわ）や高瀬川等の開削を行い京都発展の礎を築きました。

小倉百人一首

『小倉百人一首』とは、藤原定家が撰者とされる百人一首で、百人一首としては最も古いものとされています。その後、多くの模倣作品が創作されたため、それらと区別するため、山荘の地にちなんで『小倉百人一首』と呼ばれるようになりました。その成立過程を示すものとして、『明月記』及び『百人秀歌』等が重要な資料とされています。『明月記』は、定家が19歳から74歳まで書き綴った日記です。定家74歳の時に、息子である為家の妻の父、宇都宮頼綱（法名：蓮生）の求めにより嵯峨中院山荘に飾る障子色紙形を染筆したと書き記しています。『百人秀歌』は、百人一首と配列は異なりますが、97首の歌と98人の作者が一致します。この『百人秀歌』の出現により、百人一首の撰者は定家であることが確定的となりました。

和歌集名	下命者	撰者	成立年	撰歌数
① 古今集(※1)	醍醐天皇	紀貫之ら4人	905年頃	24首
② 後撰集	村上天皇	清原元輔等5人(※2)	956年頃	7首
③ 拾遺集	花山院	花山院(※3)	1006年頃	11首
④ 後拾遺集	白河天皇	藤原通俊	1086年頃	14首
⑤ 金葉集(※4)	白河上皇	源俊賴	1126年頃	5首
⑥ 詞花集	崇徳上皇	藤原頭輔	1151年頃	5首
⑦ 千載集	後白河上皇	藤原俊成	1188年頃	14首
⑧ 新古今集	後鳥羽上皇	藤原定家等5人	1205年頃	14首
⑨ 新勅撰集	後堀河天皇	藤原定家	1235年頃	4首
⑩ 続後撰集	後嵯峨上皇	藤原為家	1251年頃	2首

※1 わが国最初の勅撰集。

※2 清原元輔等5人を「梨舌の5人」という。

※3 花山院自らが藤原長能（ながとう）等の協力を得、藤原公任（きんとう）の『拾遺抄』を増補して成立させたという説が有力。

※4 3回の奏上返却を経て編纂された上、それ以外に諸伝本が存在するため、不明な点が多い。



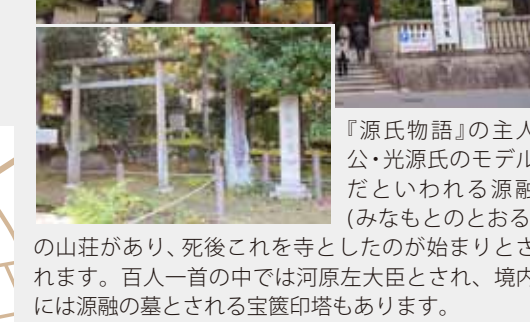
ちゅういんりょうどうさきのだいなんごんじむらのだめいけきょうのふか
中院入道前大納言藤原為家卿之墓

為家は鎌倉時代の歌人で藤原定家を父に持ち、「続古今集」や「続古今集」の編纂に携わりました。墓は厭離庵の東側の小さな公園内にあり、墓の横には「定家卿墳遷葬所」があります。



せいりやうじ(さがしゃかどう)
清凉寺(嵯峨釈迦堂)

『源氏物語』の主人公・光源氏のモデルだといわれる源融（みなもとのおとる）の山荘があり、死後これを寺としたのが始まりとされます。百人一首の中では河原左大臣とされ、境内には源融の墓とされる宝篋印塔もあります。



じげんどう(ちゅういんかんのん)
慈眼堂(中院観音)

本尊である「木造千手観音立像」は、12世紀末、この地に山荘を構えた藤原定家の念持仏とされます。



奥野々宮地区
7首
後撰集



野々宮地区
4首
新勅撰集



野宮神社



嵐山駅



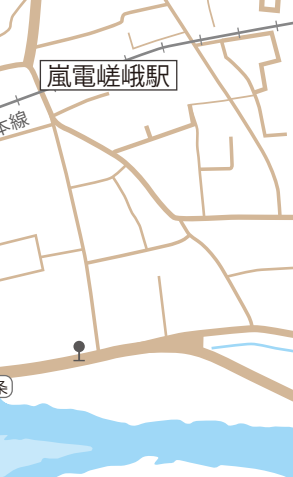
天龍寺



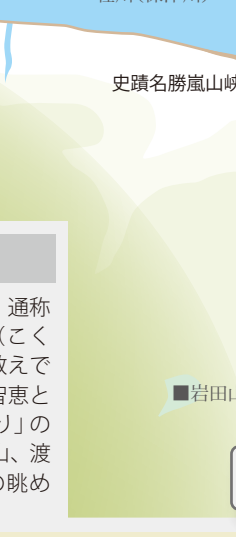
角倉了以翁銅像



時雨殿



渡月橋



嵐山東地区
21首
金葉集・千載集・続後撰集



嵐山駅



法輪寺



渡月橋



嵯峨嵐山

～小倉百人一首ゆかりの地～

来ぬ人をまつほの浦の夕なぎに
焼くや藻塩の身もこがれつつ
権中納言定家（藤原定家）

渡月小橋から小倉山を望む

京都の嵯峨嵐山は風光明媚な観光地として有名です。特に新緑の春や紅葉の季節は比類なき美しさで訪れる人を感動させます。

平安時代後期に、藤原定家はここにある小倉山の麓に時雨亭（しぐれてい）と名づけた山荘を設け、そこで、現在、歌カルタ等で親しまれる小倉百人一首を編纂しました。嵯峨嵐山は発掘調査でも様々な遺跡を確認していますが、比較的最近に小倉百人一首の歌碑が設けられたエリアを巡り、京都の代表的な観光地の美観ポイントを併せて紹介します。



A 長神の杜地区



B 奥野々宮地区



C 野々宮地区



D 亀山地区



E 嵐山東地区



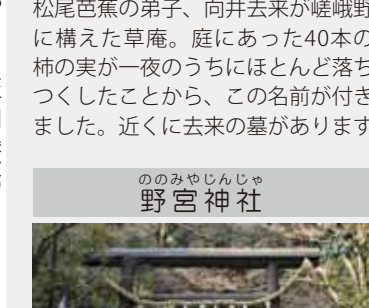
らくししゃ
落柿舎

松尾芭蕉の弟子、向井去来が嵯峨野に構えた草庵。庭にあった40本の柿の実が一夜のうちにほとんど落ちつくことから、この名前が付きましました。近くに去来の墓があります。



てんりゅうじ
天龍寺

足利尊氏が後醍醐天皇の菩提を弔うため、夢窓疎石を開山として創建した臨済宗天の大本山。疎石作庭の曹源池（そうげんち）庭園は四季折々の美しさを見せ、国の史跡・特別名勝に指定されています。また、1994年に世界遺産に登録されました。



ののみやじんじ
野宮神社

伊勢神宮に赴く斎王が精進潔斎したところを野宮といいます。クヌギの木を使用した黒木鳥居は日本最古の鳥居の様式で、目を引きまします。



とげつぎょう
渡月橋

平安時代、亀山上皇が曇りのない夜に月に橋を渡っていくように見えた様子から、「くまなき月の渡るに似る」と感嘆され、渡月橋と命名されたといわれます。全長155m。

◀ マップ目印解説 ▶

- おすすめルート
- - - よりみちルート
- 📷 写真撮影おすすめポイント
- 🚏 バス停
- 🚔 警察
- 📶 信号機
- 🚻 トイレ
- 🚶 踏切

嵯峨 嵐山

小倉百人一首ゆかりの地



～文化財と遺跡を歩く～ 京都歴史散策マップ



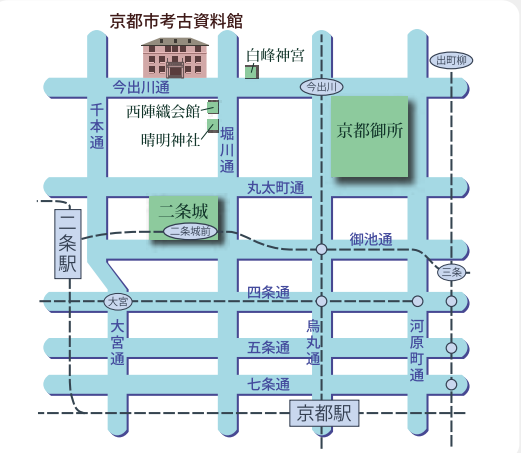
発行 京都市・(財)京都市埋蔵文化財研究所



京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435
京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265-1
TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/
入館無料・月曜休館(月曜が祝日の場合は翌日)
開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)
JR京都駅より地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩15分
市バス201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ



嵐山周辺の発掘調査

平安京の西の郊外にある嵯峨野は、天皇の離宮や貴族の別業が多く営まれました。近接する嵐山や大堰川(桂川)も古くから景勝地として貴族達に愛され遊覧や詩歌の名所でもあり、別業のほか寺院も建立されました。9世紀中頃には嵯峨天皇皇后・橘嘉智子(檀林皇后)が尼寺・檀林寺を建立し、鎌倉時代には後嵯峨天皇が嵐山殿を造営され、その後も亀山・後宇多上皇の御所として使用されました。嵐山殿は、大堰川の水を利用した園池と対岸の嵐山の景観を取り込んだ南庭を有していたとされます。そのほか室町時代には、後醍醐天皇が夢窓国師を開山として建立した臨川寺があり、また、足利尊氏は後醍醐天皇の菩提を弔うために天龍寺を建立しました。このような歴史と景勝地であることから、嵐山周辺は史跡・名勝に指定されています。発掘調査では、天龍寺南方で平安時代前期の庭園を発見し、また「大井」銘のある軒平瓦も付近からみつかっています。中世には嵐山殿関連の建物基壇跡や庭園遺構、そのほか天龍寺・臨川寺関連の遺構も多数発見しています。

平安時代

発掘調査では平安時代前期の庭園遺構が発見されています。庭園遺構からは園池・洲浜および景石の抜き取り穴がみつかっています。園池の規模は南北約8m、東西約37mもあり、東側に洲浜がありました。一緒にみつかった遺物は9世紀の前半のもので、須恵器の小壺(瓶子)や二彩の壺・緑釉の鉄鉢・灰釉の薬壺など仏教色の強いものが多いのも特徴でした。また、別のところからも平安時代の遺物は発見されており、「大井」銘の軒平瓦もみつかっています。

天龍寺関係

室町時代の天龍寺関連の遺跡は、寺はもちろんのこと、その寺内町に関するものも発見されています。まず嵐山殿の棟敷殿基壇跡の上に造営された二つの土壇がみつかっています。大きいほうの土壇は長径が約8m、短径が約6mのものです。小さいほうは長径が約3m、短径が約1.5mのものです。天龍寺内の霊庇廟(足利尊氏が後醍醐天皇のために建てた廟)のものと考えられます。その他、各所でこの時期の堀や建物基礎と思われる石敷き遺構等多数がみつかっています。また、応仁の乱時のものと思われる高熱で焼け爛れた瓦がみつかっています。



応仁・文明の乱の戦火で焼けた瓦

亀山殿跡関係

鎌倉時代の亀山殿関係では、建物跡の地業や庭園遺構を発見しています。建物基壇は棟敷殿と考えられるもので、石列で区画を造りその間に土を何層も入れ、つき固める版築という方法で形成していました。その後、この建物基壇は天龍寺の造営時に霊庇廟へと替わっていきます。棟敷殿跡の発見場所より100mほど西側で四阿風の建物と景石や斜面にある石組み遺構からなる庭園遺構を発見しています。亀山殿南庭の可能性もあります。



臨川寺

臨川寺では、昭和40年代から発掘調査が実施され、焼失したと考えられる建物跡や庭園跡、石組みの溝などが発見されています。建物柱穴から大理石製の袈裟留具が出土しています。その後の調査では、主に溝や土坑等が検出されています。遺物では瓦類が多くみつかっていますが、その中には鬼瓦等もあります。また、土器類では瓦器等の器が多くみられます。

